

民営化のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> • 市の財政負担が小さくなる 2 ページ以降資料 • 一般的に民営化する際には「保育サービス」が拡張されることが多い 休日保育・夜間・延長保育等、ただし、私立園では困難な取り組みニーズへの対応は公立が担う • オリジナリティのある保育、保育の選択肢が増え、既存園への刺激になる 中野市の保育のスタンダードは公立園が担う • 公立に比べ、正規職員の割合が多くなる傾向がある 公立は保育士を他の公立園へ再配置が可能になり、児童の受け入れ増加を期待できる • 保育士の賃金改善が進んできている 民間保育士は処遇改善等加算により、賃金改善が行われている • 市、公立園の運営にゆとりができ、保育環境が改善される 民営化された園の保育士を他の公立園に配属することより、保育士不足が解消される 運営費に余裕ができ、玩具や遊具などの整備が進む • 保育士の異動が少ない 在園期間中は同じ先生が園に居てくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 経営者（経営主体）の方針により保育内容や方法に違いがある →幼児教育、保育の多様性が期待できる 極端な運営方針は指導監査によりチェック（市の考え） • 経営主体により、営利性、継続性等が異なる 企業は営利目的なので、突然やめられたりすることもある（非営利：社会福祉法人、学校法人、NPO法人など） →定期的な指導監査でチェック • 行政や地域との関係性の希薄化 巡回の人との会話等、公立でできていたことができなくなる →公立園との連携・交流または、民間施設に地域交流を条件に入れることで対応（市の考え） • 市や県の介入が難しくなる →定期的な指導監査によりチェック • 移行による子どもへの影響 特に、保育士の交替、保育方針・内容・方法の違い等。事業者は公立のやり方をそのまま引き継ぐわけではないので、うまくいかないケースもある →適切な引継ぎ保育の実施で対応（市の考え） • 私立園の保育士確保 公立園で働いていた非常勤の先生を常勤にして、民間が雇うケースが多い →正規は残ると思われる（市の考え） • 重度の障害をもった子どもの受け入れが難しい →公立で対応（市の考え）